

## 電通「鬼十則」再考

大手広告代理店といえば電通です。広告業界の覇者であり新卒の人気就職先の常時上位にあります。この電通には昭和二十年代に四代目社長だった吉田秀雄という傑物がおられます。中興の祖といわれ彼には「鬼十則」と言われるものが存在します。電通マンをここまで企業戦士として名を馳せる地位にまで成長させたのはこの吉田氏の手腕と思想と考える人は少なくないはずです。その彼がつくった仕事の流儀とも言えるこの十則は今や時代の変遷の中で葬り去られようとしています。コンプライアンスの問題や労働基準法、今の働き方改革と照らし合わせれば時代錯誤なのかもしれません。しかしながら私は個人的には素晴らしい心構えだしむしろ停滞化している日本社会にはこの「鬼十則」こそ必要と思えてならないのです。戦後の高度経済成長期に軍隊教育を受けた人たちにとってはどうってことはないという風潮の中での十則であったとは思いますがそれでも私は仕事とはそのくらいの覚悟でやらなければならないと経営者として本気で思います。本気で仕事をしている者にとってはごく当たり前のことしか言っていません。私はたまたまかもしれませんが友人知人に少なからず電通マンがいます。この人たちがまた揃ってみないいい人たちです。知的で仕事人で爽やかです。リクルートをしたい人たちばかりです。かつて2016年に新入社員の過労死自殺事件が発生しました。労働基準法違反により起訴されて2017年10月に有罪判決となりました。過酷な長時間労働が問題視されました。犠牲者の方には心からご冥福をお祈りします。それでも私はどこの企業も似たり寄ったりだとは思いますが。私はかつて永平寺で修行中 二年半は他出をすることなく皆勤賞でした。睡眠時間も削られて自由時間もなかったです。一カ月の報酬も一、二万円でした。この修行がよかったとは思いませんが何とかなることは覚えしました。ただこの鬼十則によって魂が鍛えられて猛烈社員として働く精神的支柱になっていたことは確かです。またいつの日かこの十則が世に出ることを密かに望んでおります。経営者は鬼の心をもたなかったら務まるはずがありません。ホリエモンの言うようにほとんどの人はまるで行動力というものはありません。腰砕けです。私は僧侶たちを見ていな

ぜひとりで行動ができないのだろうかといつも思います。だから方向性が見えないのです。そういう意味でもこの十則は参考になります。以下 鬼十則を紹介します。

- 一、仕事は自ら創るべきで、与えられるべきではない。
- 二、仕事とは、先手先手と働き掛けていくことで、受け身でやるものではない。
- 三、大きな仕事と取り組み、小さな仕事はおのれを小さくする。
- 四、難しい仕事を狙え、そしてこれを成し遂げるところに進歩がある。
- 五、取り組んだら放すな、殺されても放すな、目的完遂までは……。
- 六、周囲を引きずり回せ、引きずると引きずられるのでは 永い間には天地のひらきができる。
- 七、計画を持って、長期の計画を持っていれば、忍耐と工夫と、そして正しい努力と希望が生まれる。
- 八、自信を持って、自信がないから君の仕事には、迫力も粘りも、そして厚みすらない。
- 九、頭は常に全回転、八方に気を配って、一分の隙もあってはならぬ、サービスとはそのようなものだ。
- 十、摩擦を怖れるな、摩擦は進歩の母、積極の肥料だ、でないと君は卑屈未練になる。仕事は自ら創るもので与えられるものではない。

まさしくその通りでほとんどの人は言われたことしかしません。言われたことすらままならない人が多いことに本当に驚きます。言われたことができてないのにも関わらず言われていない、やっちはいけないことをしている人が多いことにも呆れることがあります。そのくらい仕事は難しいのかもしれませんが。仕事は先見の明でもってするものです。先読みをしながら先手を打てなかったら必ず出遅れます。結局は追いつかなくなって諦めざるを得なくなります。考えている暇があったら先を行かなくてははいけません。決してやらされてはいけません。このタイプの人に仕事を頼んだ場合は半分もこなせないなので仕事は迷宮入りしてしまいます。受け身で仕事をしている人とは一緒に仕事をしてはいけません。触

発してくれる人を選びましょう。難しい仕事に挑戦することこそ仕事の醍醐味を味わえるというものです。私はこれまで響感を買い周囲の迷惑などどこ吹く風で難局にいつも取り組んできました。それが今、奏効して知見と揺るぎない地位や立場を手に入れました。経済力や人脈や基盤をもったために自由奔放に生きられています。ハイリスクによってハイターンを得ております。事業とは針に糸を通すものだと言いますがこれをやってきたために強固な地盤が築けています。難事業と果敢に戦ってきたために実力はついたし自信にもなりました。一生残せる軌跡となっています。一度取り組み始めたら途中で投げ出してはいけません。諦めたらそこですべては終わりです。絶対に放さない覚悟は必要です。食らいついていくことです。殺されても放すな、くらいの気概は必須です。当然だと思います。執念がなかったらものになどなるはずがありません。目的完遂までは撃ち続けなくてはなりません。完膚なきまでに。周囲を引きずり回すことも重要です。(檀)信徒や宗派の抵抗勢力にはこちらのプラットフォームに引き摺り込んで戦略を打ち立てていくことです。これが後々城壁となってゆきます。事業計画は短期 中期 長期といずれも必要です。特に中長期戦略としてはファミリーカンパニーが有利です。私の場合はある意味で家業であり世襲のための強みはあります。中長期計画を立て易く権限としての意思決定権は絶対的です。その上に実績を作り続けているため早期での決済ができます。独自の経営哲学観でもって工夫参究を重ね練りに練っていくことにしています。そこからいつも新しい発見が生まれています。自信を持つことは必須です。自信を持つことも堂々としていたら周囲を圧倒できます。神々しさも身につけてきます。自信を持つには常に正しいことをすることです。質素儉約な生活をしていれば疾(やま)しい気持ちはなくなります。自信を持って突き進んでいけば迫力が出てきます。仕事の層が自ずと厚みを増し凄みが備わってきます。身も心もフル回転させてありとあらゆるところにアンテナを張り巡らせること。一期一会でもって最善を尽くしていればものごとはいつも好転します。天が味方をしますから心配はいりません。私たちは毎日の朝のお勤めを休むことはありません。休んでもよいことは何もありません。一日一日が一生懸命です。生き切りの人生を歩みたいものです。摩擦を怖れていては何も成就不再はしません。摩擦があつてこそ

人は磨かれ輝きを放ちます。その苦悩の中で鍛えられていきます。摩擦こそ成長の糧です。成功の母です。そこを避けていたら不貞腐れた人間になるだけです。やっかみの人生になるだけです。前に突き進んでいくことは自分事に懸命になることです。そこには後悔という文字はありません。運命を受け入れて新しい自分と出逢うだけです。他人事に巻き込まれてはいけません。自分の障地から離れたら負けです。引き込むのみです。下世話なことですが今 俗世間では広末涼子の W 不倫問題が取り沙汰されています。個人の家庭問題に過ぎません。どうってことでもありません。本人たちの問題だけで世間的に騒ぐことでもないのかもしれませんが。もっと言うなら今後は問題にならなくなってくるようにも思えます。夫のキャンドル ジュン氏が昨日 記者会見をしました。本人も言っていました。広末涼子という人気女優と結婚すればそれなりのことは、と。そうです。キャンドル ジュンは広末涼子の夫として生活ができておりそこに注目が集まっております。もしも広末涼子の夫でなかったらある意味 普通の人です。もっと言えばキャンドル ジュンにはもったいない人でした。どう見ても広末が何倍も格上だし活躍をしております。その妻が男遊びをしても何も不思議なことではありません。大人しくしていることの方が不自然です。鳥羽周作シェフと浮気をされたからと言って謝罪を求めるなど傲慢です。鳥羽周作氏の方が魅力的だったということです。それはキャンドル ジュンの自惚れに過ぎません。私の妻は私に言いました。あなたのようにこれだけ成功していて女性からモテていたら浮気や不倫をしないことの方が不思議ですよ、と。聖人君子で質素儉約家であることの方がむしろおかしいと。日本人は他人事を気にし過ぎです。広末涼子の魅力と人気はこれでさらに上昇します。鳥羽周作シェフのお店はさらに繁盛するでしょう。一時の契約破棄やテレビ出演の降板などどうってことはありません。これを機に日本人の自由恋愛観は変わっていくことでしょう。

合掌

令和 5 年 6 月 20 日

見性院住職